

広報 あかいけ

発行所 赤池町役場 編集 総務課 文書広報係 No.149号

町の人口

(10月末日現在)

男	4,288人
女	4,764人
総人口	9,052人
世帯数	2,762世帯

渡欧を終えて

赤池町長 池永輝昭

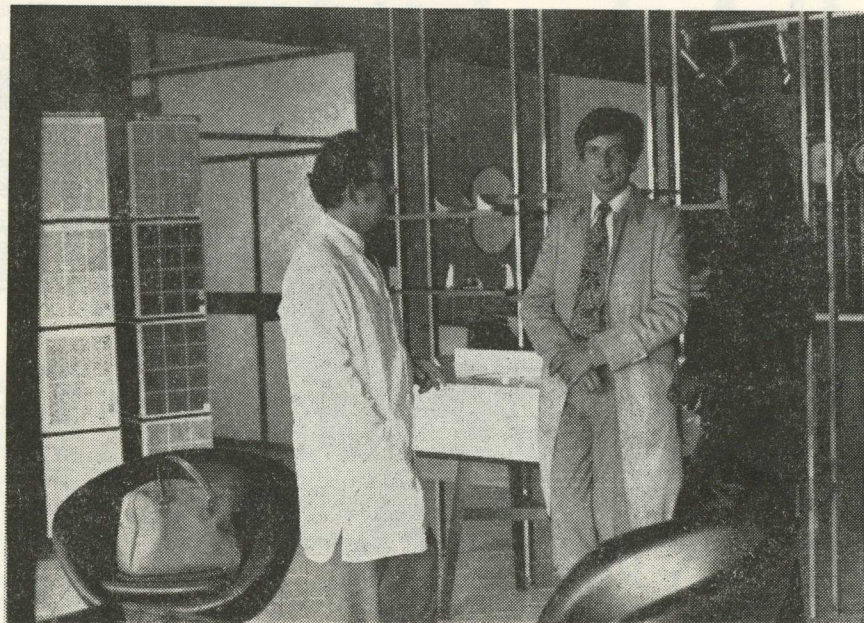
十月三日夜、十一時過ぎに羽田を飛び立ったJAL405便は途中、アラスカ大陸のアンカレッジとデンマークのコペンハーゲンに立寄り、予定どおり十月四日現地時間の午前十時(日本時間午後六時)パリ郊外ドゴール空港に着く。

さすがに欧州一の近代施設化を誇る空港といわれるだけあって、ロビーから税関検問所迄はエスカレーターが我々を運んでくれる。長時間空の旅で疲れたのか夜明けを思わせるオーロラ地帯の空の明るさに十分な睡眠がとれなかったのか、出発前の羽田空港での一行のあの燥ぎは誰れにもなく、ただだまって添乗員の指示に従う。目的地のフランスに無事到着した安堵感が一層疲れを増すのか、交通公社さしまわしのバスに乗っても一同のダンマリはつゞく、フランス化した日本人ガイドのどことなく冷たく感じる態度にも親近感はずいぶん減る、説明もきかぬビジネス的な感をうける。

車がセーヌ川を渡って右岸に添って市内に入り、シテ島のゴシック建築の代表作といわれるノートルダム寺院や、フランス革命で有名なコンシエルジュリ等が目の前

とじて保存して下さい。

フ(新橋)を渡ってルーヴル宮殿前を通ってコンコルド広場やエトワール凱旋門を見せながら宿泊地のホテルに着いた頃には、すっかり元気を取り戻し、荷物を部屋に



に見える頃になると皆、窓ガラスに額をくっつけ、次々に現われる外の景色に目をみはりカメラのシャッターがせわしくなる。車がフランス最古の橋ポン・ヌ

置いたまま外に飛び出す元気な若者もいる。午後一時、駐仏日本大使館を訪れるも午後三時まで昼休みとて玄関のシャッターを降ろして中に入

れてくれない。

附近をぶらつき時間をつぶして再び訪れ、出発前に田中大助先生より中山大使宛の添書を提出して面会を求めると外出中として中島二等書記官が替って、我々の要望をきいてくれる。夕方暗くなるまで各所に電話して我々の目的がかなえられるような工場を調べてくれる。

パリ市内から八十キロ程離れたフェルテ・ゴッシュエ村の、ビルロワ・エ・ボック社の工場が十月七日月曜日ならば工場見学をさせてくれるとの了解を取りつけてもらう。フランスでは土曜・日曜はほとんど休むので工場見学は無理とすることを知らされる。

大使館紹介の通訳相京昌子女史が約束の午前八時半きっかりに、ホテルを迎えにくる。通りがかりのタクシーを三百フラン(一万八千円)でチャーターして目的地に向う。

工場長オレッセ氏の出迎えをうけ事務所主任ソーロ氏の案内でタイルが出来上がるまでの全工程見学させてもらう。工場内での写真撮影は禁止されているとのこと、青柳君の質問に対する回答もほんとうに親切で、我々が納得のいくまで説明してくれる。なんの変哲もないひとかたまりの土が、素晴らしいタイルとなつて出てくるまでのひととつひとつは今でも頭の中に焼きついて離れない。

フランススタイルの五〇%はこの工場の千四百人(ほとんど女子工

(2)ペー・へつづく